

先般実施された東部方面隊の記念日への参加で、今年度の小生の陸上自衛隊部隊の記念日参加も一段落・終了である。

近間は別にして遠い所は宿泊を伴うので土・日と連続せざるを得ず、老兵にとっては結構きついものがある。一週間と言うリズムに慣れた身には休みなしは応える。

然しながら、何処の部隊に行っても、現役諸官の中に誰かしか知る辺も居り、未だ小生らも賞味期限内のようだ。

左はさりながら、記念日参加には効用もあり、考えさせられることもある。

(写真は追って掲載予定！)

1 記念日の効用

① 同期生等との再会

関東周辺に所在する同期性には同期生会等で再会してお互いの近況を知る機会があるものの遠く離れた同期生等にはなかなかその様な機会はない。精々年賀状がお互いを繋ぐ糸である。遠隔地での記念日に参加すると、懐かしい先輩、後輩そして同期生に再会することが出来、お互いの久闊を叙し、近況を確認し合って、絆を強めることが出来る。お互いにそれなりに年取ったものではあるが、不思議に何の抵抗もなく昔に戻ることが出来るから不思議である。

長い間御無沙汰している先輩には詫びを、後輩には激励を述べる事が出来るのも有り難い。

② 部隊の実情の確認

部隊の実情を深く知ることは出来ないけれども多くの現役諸官に合えることによつて、広く実情の確認が出来るのは有り難い。

2 テーマのある記念日行事

統合、これからの50年を通ずる部隊や隊員としての哲学・生き様、地域との連帯等夫々の方面隊・師団や部隊等の状況に応じ、記念日のテーマを設定してそのテーマに沿った実施要領を工夫している。ある部隊では不祥事を犯している隷下部隊があった為に「祝」なる文言を一切使用しないように気を使っているところもあった。

執行者の頭を悩ませるところであるが、何を隊員諸官や地域の方々に訴えるかは極めて重要な事項である。

3 地元知事の出席等

一昔前は方面隊クラスの記念日の時に地元知事や首長が記念日に参加して祝辞を述べるというのは稀であったが、近年では知事等の参加が常態化しており、喜ばしいことである。

今年度について言えば、北部方面隊：高橋はるみ北海道知事、東部方面隊：村井嘉浩宮城県知事、東部方面隊：上田清司埼玉県知事、中部方面隊：井戸敏三兵庫県知事、西部方面隊：潮谷義子熊本県知事に参加があり、夫々祝辞を述べられた。

また、国政与党のみではなく、野党民主党の国会議員の先生方の参加も次第に多くなっているのは今昔の感を禁じえない。隔世の感を強く感じるのは小生のみではあるまい。

4 市中行進（市街地パレード）の実施

記念日における観閲行進は、観閲官が隷下部隊の訓練練度・精強度を直接己の目で確認する場面であると同時に、広く国民に日頃の訓練成果を披露して国民の負託に応えるに足る部隊足り得ていることを顕示するものである。見る者が見れば当該部隊のレベルはたちどころに見破られる。我々も次第に小姑になりつつあるようで気を付けなければならない。

観閲行進をよく“歩武堂々の行進”と表すこともあるが、最近の観閲行進では徒步行進が少なくなった。歩かない行進に対し、歩武堂々との文言を使用するのは適当ではない。徒步行進の復活を切望する。徒步行進を見れば、部隊の練度は一目瞭然である。

さて、全国の記念日で許可を得て市街地において観閲行進を実施しているのは数少ない。市街地・公道を使用しての観閲行進のメリットは、駐屯地内に比してより多くの部外の方々に部隊の威容を見て頂けるということであり、より身近に感じて貰える筈だ。結節時の記念日において実施することは珠にあるが、恒常的に実施している駐屯地等は以下のとおりである。**現在確認中であり、判明次第追記する。**

5 部隊長との隊員諸官との連帯確認

記念日は内にあっては、各執行者と各部隊隊員の生死を共にするという証を確認する場である。ある部隊で記念日に政治家の初度視察を行われるという極めて異常な事態があったが、それが速やかに是正され、関係者の御努力に敬意を表したい。言わずもがなではあるが、今後とも自衛隊・部隊の記念日如何にあるべきを求めて記念日を充実させて欲しいものである。